

第13回生駒市介護保険運営協議会会議録

1 日 時 平成28年1月8日（金） 午後2時0分～午後4時

2 場 所 生駒市役所4階 401・402会議室

3 出 席 者

委 員 澤井 勝 高取 克彦 萩原 洋司 小川 千恵里 小坂 和子 櫻井 明子 林 昌弘
永田 弘 村上 一美 日野 紀代子 藤尾 庸子

事 務 局 影林福祉部長

高齢施策課：安達 博臣 田中 明美 堤 良太 古田 領哉 水澤 宏之

介護保険課：細川 隆庸 島岡 伸康 小倉 啓子

（欠席委員 辻村 泰範 中庄谷 幸榮）

開 会

会長（澤井）挨拶

案件1 会議の公開・非公開について
公開で行うこととする。

案件2 超高齢社会に対応可能な交通費助成制度及び高齢者福祉施策のあり方について

① 市民意識調査について

資料1、資料4に基づき説明

② 地域包括ケア推進会議の報告について

資料2に基づき説明

委 員 : P.13「移動支援が効果的な高齢者に対象を限定しつつ、…」の中の、「効果的な」は、
移動支援が効果的と読めばいいのか。

事 務 局 : そのとおりです。

委 員 : 回答者は小学校区別に出てきているが、「全額利用している」という人の地域別はない
のか。地域特性が出たのはないのか。

事 務 局 : まだまとめきれていない。まとめられるかどうか不明である。

委 員 : P.4で回答している人は元気な人、ほとんど使える人だ。要介護度のある人はどうか。
全部使える人か。元来元気な人にあげるのはいかがでしょうか。

事 務 局 : 制度利用できる人は元気な人、そうでない人への支援を…ということで次に7つの案
をあげている。

③ 超高齢社会に対応可能な施策について

資料3に基づき説明

委員：すばらしい事業だと思うが、大前提としてボランティアが出てきている。そのボランティアを担う者が高齢化してきている。介護保険の給付費を抑えるよう努力はされているのはよくわかる。友人が親の介護給付費明細書を見て口腔ケアが毎回載ってきていてびっくりしたと言っていた。そのあたりもまず精査してほしい。

事務局：いろんな方策を検討していかなくてはいけない。他市の状況も参考にして検討している。案としてあげたものです。

委員：これに参加されるのはいつも同じ人。この教室でもまたこの人となる。ここに大きな壁がある。

事務局：改善すべきは改善すべきと思っている。生駒市は元気な高齢者がいっぱい活動しているというのを目指していきたい。

委員：同じ課題を持っているところに我々も入り共に力をだしていく。受け皿は大変かもしれないが、一人では出来ないことも二人なら出来るんじゃないかという考えのもと、生き残ってきた。若い方を入れたが、それぞれの年代の問題をかかえている。あかんならあかんなりに、生き残っていくのを考えるのもひとつ。行政や自治体が主体ではなく、元気な高齢者が弱った高齢者を支えていくのもひとつ。いい教材を与えてもらったと思っている。

先般、総社市へ視察に行かせてもらった。10分車で走っても誰にも会わないという地域。そこでは小さな村単位で、家の庭に TENT を張り 8 人、10 人というレベルで、サロニック的に体操する。安否確認もする。立派な教室とするのではなく、小さなグループでしている。行政が主導のものは過去のものになっていく。小さな単位でするのがこれからのやり方だと知った。過疎化の村のほうが積極的に生きてると目からうろこやなど、小さな村から教えられた。

委員：介護ボランティア制度で高齢者の外出意欲、外出の機会、役割意識は介護施設を利用されているボランティアというのはイメージがわきにくく、モデルになっているところがあるのか。

事務局：多くの市で取り入れ活性化されているのを参考にさせてもらっている。デイや特養をイメージしている。レクリエーションの手伝い、話し相手、ご飯を作るとか直接身体に触れるのではなく、リスク伴わないもの、ちょっと気持ちが和らぐように対応する。

会長：今に始まったことではない。以前からこんなボランティアある。梅寿荘さんなど40年前からやっておられる。本人も行かんなんあかんねんと楽しんでされている。

委員：延べ2,000人おられる。30年、40年経つとボランティアさんが高齢化して辞められたというのがある。ボランティアなのでボランティアさん本人が楽しんで来てもらえばよい。人が変わればボランティアの形も変わっていいのかなと思っている。

委員：生駒市は先進的だね。

委員：ボランティアは一人ではできない。グループ化しないと続かない。子は収入のある方

にいく。定年後からできるボランティアを考えないといけないと思う。行政の受け皿、サポートがしっかりしていないとしんどいことだ。

いきいき体操と言われたが、地域というのはどういう地域なのか、北、中、南とか大きな分布で言われても坂道があったりで行けない。以前に空き家対策で云々言われていたがどうなったのか。

この7つの案を見せてもらってもワクワクしない。ポイントって何でしょうか。健康グッズをあげると言われても年をとれば物は要らない。ごみになるだけ。他にいい知恵がないかなと思う。

委員： 超高齢社会で時間がある人がいっぱいいる。元気な人を引っ張り出す策はないか。元気ならサロンにきてじっと見ているだけのはつまらないと思う。運営する側になってもらう。

楽しみがあって、ちょっとお得もあるという施策を行政で考えてほしい。

委員： さあボランティアを、と急に言われても出来るものではない。見て考えて体験して行動に移していかないと、気づいてもらって私も出来るわとなる。時間がかかると思っている。

委員： 介護予防も大事だが、生活支援もしっかりしてほしい。ゴミ出しの出来ない人が多い。助けてあげたいが、こちらも出来ない人ばかりになっている。介護予防も大事だが、本当に助けを求めている人に高齢者施策をしっかりしてほしい。

委員： 自分の家庭のことだが、夫が定年になり無理やり寿大学に行ってもらった。卒業してOB会にも行って楽しんでいる。お連れが出来、地域の人ともしゃべれるようになった。効果があった。寿大学の定員増やしてもらえばいい。啓蒙啓発をしっかりしていただいたら効果はあると思う。

委員： 定員200人増やされた。

委員： 集える場としてのらくらくハウスに料金が必要になってしまったが、そういうところを増やしてもらえればよい。

委員： 他所で、何か労働してあげたらポイントがもらえる。ポイントがたまったら今度は自分がしてもらえると聞いた。

会長： そういうのを地域でモデル地区としてしてもらったらいいですね。

委員： きっかけづくりが大事。女はするが、男は何もしない。啓蒙啓発してもらい、きっかけを提供する。

委員： 私が何もしない代表だ。このような会議に応募してよかった。勉強になった。こういう機会があればやれるかなと思う。

委員： この資料はタウンミーティングで使用されると言われた。出席される方は皆この資料をご覧になる。これを前提に確認をしたい。

P19 介護保険料の抑制、これは絶対でない。介護保険料の上昇の抑制ですね。介護ケアの提供体制や更なる質の充実化、これは体制をどうするのですか。体制の重点化ってわからない。

部長： 施設のサービスの向上、ソフト面との両面の向上を意図しています。

- 委員： 質の向上というのは、質もさることながら、量の確保が必要です。
P23 送迎付き一般介護予防とは今までとどう違うのか。
- 事務局： 65歳から参加の介護予防事業。重度化予防、認知症悪化予防を含めた送迎付きの総合事業をうちあげている。
- 委員： いきいき百歳体操、これは10年ほど前に梅寿荘さんがビデオを作って配られた。これをもっと広めたらいいんじゃないか。
- 委員： 今を何とかしないといけないのではなく、健康寿命延ばそうとしてするんだったら、長いスパンで行っていく。1年2年やって成果がでないからまた目先変えて新たな施策ではなく、30年40年スパンで徹底的にやる。体操をするなら、赤ちゃんもおばあちゃんも皆知ってるというレベルまでいかないと定着していかない。
- 会長： アンケートで廃止は8%、見直し47%と半数以上がそういう意見だから、これを土台にしながら転換していかないと。いいチャンスだと思うので具体化の方向で考えてほしい。地域というのは自治会レベルだと思う。生駒市の施策で言うと市民活動推進課の議題である。新しい市民自治協議会のレベルだ。リンクした議論、リンクした施策にした方がいい。実効性が出てくる。次の提案を期待します。
- 事務局： ありがとうございます。予算も伴うので議会の議決も必要になる。その前に理事者との話し合いもあるので、必ずしも実行に移せるわけではないということを了解しておいてほしい。
- 部長： 総括すると、一律1万円が皆に届いて、使う人も使わない人もいる。新たな介護ボランティアについては、仕組みを作って状態像に応じて還元されていけばいいなと思っている。来ていただいた方には物じゃなく、新たな仕組みの中でボランティアがスキルをつけ、新たなボランティアの芽が育っていけばいい。ポイントラリーは、市の事業に参加して体を動かして元気になってもらえればいい。その成果として交通費助成に変わるものを還元してもらおう。このように状態像に応じて検討していくということです。
予算の締め切りも迫っている折、年度内にどこまでいけるかはわからないがやっています。
- 会長： 以上で終了します。